

発表テーマ：「あなたの夢はなんですか？」

所属先所在の市町村：豊田市

所属先等名称：合同会社 P-BEANS

役職：理学療法士

発表者氏名：小濃哲治

【はじめに】

私達の働く「合同会社 P-BEANS」では、リハビリデイサービス、訪問看護・リハビリ等を運営している。会社のコンセプトとして P から始まる 5 つの方針をかかげて、人が集まる基地をイメージし、デイサービス「P-BASE」を行っている。利用者や地域の方々と共に人間力を豊かに育み、明るい未来を創るための挑戦と一人ひとりの自己成長を目指している組織である。介護保険法の目的の第一条の一部にある「その有する能力に応じ自立した日常生活を営むこと」を基本として P-BASE では、デイサービスに通い、介護保険への「依存」を生むのではなく、自信をつけて自立した生活を手に入れて欲しいという想いから「介護保険からの卒業」「介護保険証の返納」に力を入れている。その取り組みについて報告する。

【目的】

現在、開設 5 年までに機能向上、仕事復帰などからデイサービスを卒業、介護保険の返納者 4 名・自立認定者 40 名であった。しかし、要介護者中心の通常規模デイサービスでは、卒業生の割合が低下傾向である。また、利用者の目標に対するマンネリ化が問題となっていた。これは、スタッフにも同様のことが言えた。今後の医療・介護に対する社会的背景からも、この問題点を打開するために要介護者中心のデイサービスだからこそ、自立を促すことを目指し、「夢・目標を持った介護保険卒業」への新たな取り組みを始めた。

理学療法士、看護師、介護員等 6 名のメンバーで「自立支援プロジェクト」を結成した。全員が同じ目標を持ち進むため、下記の 5 つを行動指針に置いて取り組んだ。

《P-BASE 自立の概念》

1. ご利用者様自らが【夢・目標】を掲げること
2. 夢・目標実現のために、ご利用者・スタッフが一緒に計画を立てること
3. 主体的に生活できるように支援すること
4. 社会参加の場を提案すること
5. 毎年、毎月、毎日振り返りをする

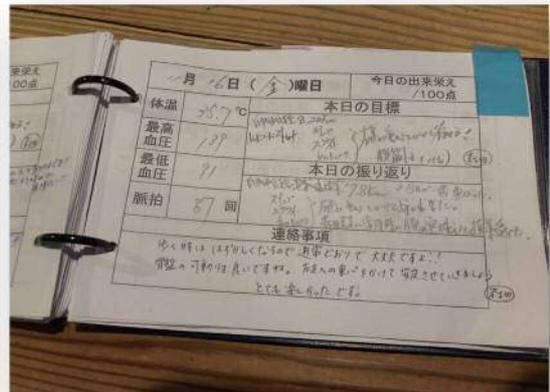
これを踏まえて【P-BASE 自立の概念】を提唱する。

【具体的な取り組み】

開設以来、弊社では利用者に「目標ノート」を配布している。これは、毎回の利用時にその日の目標を自身で考えてもらい、リハビリ終了後に自己採点をして振り返るためのツールである。これを繰り返すことによって、自然と目標の意識付けが行われていくことが目的である。目標ノートの1ページ目には本人からの聞き取り、ケアプラン等を元にして、利用者一人一人の目標達成をイメージした写真を作成し挟み込んだ。毎回目標ノートを開いた時に、そのイメージ写真が目につくことの「目標の見える化」を目論んだ。しかし、その内容の大半が「立ち上がりができる」「転倒しない」等の現実的な目標がほとんどであった。もっとワクワクし、見るたびに心が熱くなる目標を持つて頂くため、今回は更なる一歩を踏み込むために「一生のうちで叶えたいワクワクする夢」を聞き取りしていく「夢シート」を書き出してもらった。また、スタッフも同様に「夢シート」を作成し、利用者の見本となれるようにした。



リハビリ前の目標面談中



目標ノートの一例

【実施前の変化】

利用者に、「あなたの夢は何ですか？」と聞いたところ半分の方は、「ない」「元気に過ごすこと」など不明確な利用者が多くいた。しかし、スタッフがサポートに入ることで夢を語ってくださる方が増えた。「妻と結婚した年に植えた植樹を見に行きたい」「宝くじを当てて豪華客船で世界一周旅行」2割の方は、持ち帰って記載する人、細かく記載する人、絵やコラージュをしてくれる人など様々な表現の「夢シート」ができた。



夢シートを記入



スタッフが夢シートをもとにイメージ作成

【実施後の効果】

利用者同士の会話量も多くなり「あなたの夢は何なの?」「素敵な夢ね」など親密性も上がるような会話が多く見られた。今は夢を話している時の利用者のいい表情が見られるなど盛り上がりを見せている。スタッフ側の変化としても、利用者の明確な目標を知ることによりリハビリに活かす事ができ、コミュニケーションの向上、利用者との信頼関係が深まった。また、ご家族同席の担当者会議では、スタッフから利用者の夢シートの内容を話すことで、ご家族も巻き込んで夢を考えることに繋がった。そして、今の自分の現状を知ることによって、リハビリへの意欲が増す効果も出ている。更に、利用者から、「他利用者の前で自身の夢を話すことをしたい」、など積極性の向上も見られた。他利用者の前で自身の夢を話すことによってその夢への確実性が増し、意欲の向上に繋がっていると考えられる。

【今後の展望】

今年の6月からスタートアップした取り組みだが、今後自立支援プロジェクトが社内全体に浸透し、利用者はもちろんスタッフの夢シートに記載した夢が達成することを期待している。他者の夢を聞くこと、その夢を実現化できる人が増えることで、依存から自立、QOLの向上、介護保険卒業者が増加することを目指している。今後この取り組みが日本に広まることで社会貢献に繋がると考えている。弊社の「自立支援プロジェクト」によるこの取り組みの結果が出た際には、他施設にも広がることで社会が明るくなると願っている。